



## 第11回 外国人の受入れに関する委員会 開催

**2024年10月8日（火）10:00～12:00 ニッスイ本社にて、  
第11回外国人の受入れに関する委員会を開催し、今年度の活動進捗と今後の活動の方向性について報告・議論を行いました。**

株式会社ニッスイ代表取締役社長の浜田座長進行の下、「基本指針・教育・就労」に関して活動進捗報告をするとともに、教育については、「外国ルーツを持つ子どもの教育が進んでいる好事例地域の調査の継続」と、国に対し「外国ルーツを持つ子どもの不就学ゼロを重要施策として明言すること」を求めるといふ2点が承認されました。就労については、今後所管省庁で決定される育成就労制度の細部設計に関して、議論を行いました。



▲ 浜田座長  
(株式会社ニッスイ 代表取締役社長)



▲ 植田共同座長  
(NPO法人わらび市民ネット 代表理事)



▲ 会場の様子

### 【出席者のご意見（一部抜粋）】

- 今後外国ルーツをもつ子どもの数が増加する見込みのため、その数字を見据えて国や行政が主導して対応していく必要がある。
- 子どもの言語習得能力にも差があり年齢基準で期待されるようなスタンダードの作成は難しいのではないかと。また日本語だけで教科指導を行うことは厳しく、これからの多文化共生社会において、年齢に規定されない、個々人の学習習得度合い・言語習得度合いを認め、そこに合わせた教育を施すことが必要。
- 日本語習得を始める年齢も異なることより、同じ学習時間、同じ到達点で良いのか。年齢が上がるほど日本語での教科学習のハードルが高くなるため、テストなどで配慮がないと成績にも影響が出る。到達点の設定が重要ではないか。
- 手数料徴収の上限が決められている国もある。ただ、多くの企業はその情報を知らないため、国が情報を集約し公表する必要がある。
- 技能検定基礎級の学科試験に不合格となって帰国した技能実習生がおり、他社や別業種においてもこのような事例は見られている。そのため試験の制度を変更する必要があると考える。現状、教科書や問題集がなくて試験対策もできないため、これらを整えることや母国語でも受験をできる等など対応が必要なのではないか。
- 専門学校で留学生が就職する際、学校の専攻と就職先の業務が一致していなければ在留資格「技術・人文知識・国際業務」がおりなかったが、一定の要件を満たすことで取得要件が緩和された。日本で働きたいと考えている留学生が日本で就職できるような制度になれば良い。

## 政策検討チーム

### ■活動目的

日本らしさや日本文化について理解を深め、政策検討に活かす

### ■実施内容

- ・(株)ゼンショーホールディングスが京都に保有する日本文化研修センターでの議論
- ・茶道・華道の体験や竹についての講話、寺院訪問を実施

### ■成果

- ・文化体験を通じて、相互尊重や自然との調和、身近なものに神性さを見出す精神性など、日本らしさを改めて実感する
- ・感じたことを活かした政策を検討

## 有事における国民的危機への対応

### ■活動目的

有事司令塔機能の理想形を模索（防災省庁化是非含）

### ■実施内容

- ・元内閣審議官（事態対処・危機管理）取材

### ■成果

- ・現状の司令官機能は、東日本大震災時より各省庁の連携、機動力、人員数など拡充していることを把握
- ・一方で防災庁新設は省庁間の既存役割を分解し、一時的に現行の機動力を削ぐ可能性についての懸念材料を得た

## 国家財政の見える化委員会

### ■活動目的

提言実現に向けた政府へのアプローチ

### ■実施内容

- ・(与党)自民党 財政健全化推進本部との意見交換
- ・(野党)立憲民主党との意見交換

### ■成果

- ・前回の意見交換で確認した、「実現に向けた課題となる、政府と私たち民間の認識ギャップ」について深堀りを実施
- ・提言実現に向けた今後の要望のし方や調査・研究の深め方について議論

## 外国人の受入れに関する委員会

### ■活動目的

外国ルーツを持つ子どもの教育や就労の課題に関する調査

### ■実施内容

- ・管轄省庁との意見交換、面談（文部科学省、農林水産省、国土交通省）
- ・日本国際交流センター円卓会議 出席

### ■成果

- ・管轄省庁において、教育や就労における課題意識を認識
- ・委員会にて議論すべき項目の洗い出しを実施

## エネルギー・原発問題委員会

### ■活動目的

生団連内で議論の場を創出と議論喚起活動の見直し

### ■実施内容

- ・一般社団法人構想日本 担当者との意見交換
- ・エネルギー教育推進事業事務局との意見交換

### ■成果

- ・一定の収入があり、行政にあまり関与しない点で「一般的な大多数の生活者」である生団連の会員意見を集約することの意義を再認識
- ・生団連内での議論の場の創出に関する活動設計が進んだ

## 新・災害対策委員会

### ■活動目的

防災意識啓発とリレーションの強化、生団連の認知度向上

### ■実施内容

- ・「ぼうさいこくたい2024 in 熊本」に出展

### ■成果

- ・マニュアルブックを約800部配布
- ・クイズ形式による災害対策の意識啓発と共に好評
- ・被災地支援を担うNPO団体や各関係団体とも意見交換
- ・リレーションの強化を図る

## ジェンダー主流化委員会

### ■活動目的

ジェンダー主流化に向けた本質的課題とその突破口を探る

### ■実施内容

- ・第2回企業分科会（計4回、6-10月）を実施
- ・『システム思考』で検討した企業課題解決策をトップへ提案
- ・『コレクティブインパクトアプローチ』による生団連への宿題検討

### ■成果

- ・参加各企業の課題解決提案に対し、トップのコミットを得る
- ・企業内で解決できない社会課題を「生団連への宿題」として課題化し、今後の委員会方針に網羅

## 研究課題（気候変動）

### ■活動目的

気候変動が国民の生活に与える影響を整理し、情報発信

### ■実施内容

- ・10/12-13に開催された第52回葛飾区消費生活展に出展
- ・真夏日の変化をテーマにポスターを掲示、説明

### ■成果

- ・参加した消費者に対し、気候変動への意識を喚起できた